

第1回中津川市総合計画審議会要旨

平成25年7月12日（金）

午前10時00分 開 会

1 開会

2 委嘱書交付

3 市長あいさつ

- ・平成27年度から平成39年度は、中津川市がまちづくりを進め実現させていく大事な時期。委員の力を借りて、市民に利益が享受できるようなまちづくりを進めたいという考えで委嘱した。
- ・リニアがまちづくりの構成の大半を占めているが、中津川市、全国の中山間地、中核都市を取り巻く環境は楽観できるものではない。中津川市は平成37年に約7万人に減少するという推計も出ている。
- ・このまちに住んでよかった、住みたいまちになるような思いを込めてこの計画に着手し、委員の英知を集結して、将来のまちづくりの基礎となるものをしっかりと作り上げ、リニアが走るまでの14年間で、若い人たちがさらに中津川のまちを愛し、夢のあるものにつなげてもらいたい。
- ・大変な作業で、期間的にも長い期間ではないが、よろしく願いたい。

○中津川市の総合計画と審議会の位置付け、審議会の役割について（木村企画財務課長）

4 委員紹介

5 会長、副会長の選出

～会長1人、副会長2人と決定する～

～互選により、会長は大西委員、副会長は丸山輝城委員、鈴木力委員に決定する～

6 会長及び副会長あいさつ

（大西会長）

- ・議事運営は私の私見を表に出さず公平に進めていきたい。
- ・日本の社会は、黙っていても前へ進んでいく状況にはないし、地方都市の人口減少、高齢化が象徴的で、バラ色のものが目の前に待っているものではない。
- ・リーマンショック、東北の地震で、社会、地域の市場が大いに委縮してしまった。委縮した市場で、多くの個人が自分の地元をステップに外に出ていくことで生きる道を求め、

結果的に地域に足元に向ける目が薄くなったが、常に足元を見る必要がある。

- ・地域社会と今後どう向き合っていくか。必ずしも将来性に恵まれていると言えない状態で、最善のものを生み出すにはどうしたらいいかという課題に立ち向かうことになる。そのときに最も考えなくてはいけないことは、課題に対して自分たちがどれだけの役割を果たせるか、どんな役に立てるかから出発すると、どこまで自分たちができるのか、どこまで広げることができるかが見えてくる。
- ・ここに集まっている組織、機関、地域の代表の方々が、他の組織がこうしてくれたら自分の組織は良くなるといったことから出発するのか、自分の組織がこういうことができるということから出発するかだと思う。こういう考え方を皆様方に期待したい。

(丸山副会長)

- ・大変重要な時期の審議会だと思っている。商工会議所もまちづくりをやってきたが、まちづくりはよそ者、若者、ばか者の3つが揃うと一番いいと言われている。
- ・過去に審議会をいくつか経験したが、役所が考え、コンサルに丸投げし、それを追認する会ならやめたほうがいい。
- ・14年後にリニアが走るが、決してバラ色ではない。リニアを先送りの枕詞にせず中津川市行政進めてもらわないといけない。
- ・我々もリニアを先送りの枕詞にしないように、着実な歩みをしていかなければいけない。
- ・中津川市は、今、決断のときで、市長が決断した問題を我々が支えていくことも大切。
- ・私の知恵袋をお願いしている方に20年後に皆さんは相当バッシングを受けるだろうと言われた。この言葉が実に重く私の肩にのしかかっている。
- ・大変重要な時期の審議会なので、しっかり頑張りたいし、皆さんも一緒に未来を見据えた形で取り組んでいただきたい。

(鈴木副会長)

- ・20代のときに丸山さんたちと一緒に中津川市民会議を立ち上げ、以来、このまちを住みやすいまち、住みたいまちにしたいとずっと思っている。
- ・行政評価委員会や参事を経験したが、行政は、民間と経営の仕方、進め方、数値の見方がまったく違う。
- ・中津川市をどうしていくかという諮問の入口なので、忌憚のない意見を言ったほうがいい。
- ・若い人の意見をこの審議会ですどのように受け止めるようにするか大事なところ。この審議会の中に入れたいが、形を変えて若い人の意見を取り入れたい。

7 中津川市総合計画「基本構想」について（諮問）

～青山市長から大西会長に諮問書が渡される～

8 議事

～規定に従い、就任した大西会長が議長として議事を進める～

(1) 会議の公開等について(資料説明：木村企画財務課長)

～提案のとおり決定する～

(2) 中津川市総合計画審議会の代理出席に関する要綱の制定について

(資料説明：木村企画財務課長)

～提案のとおり決定する～

(3) 新総合計画の策定方針について(資料説明：島崎企画部長)

(丸山副会長) 10年で事を進め12年で完結するなら12年計画でもいい。北陸新幹線の金沢、富山は開通の2年前にはまちづくり完了しているので、最後の2年で微調整をする。先送りにしないようにしてほしい。

(鈴木副会長) 行政は速度が遅い。そのペースでこられるとこっちは進まない。最初はかなり追っていかないと流される。

(大西会長) 審議会の任期は、来年の3月。そのあとに異議を唱えても誰も聞いてくれない。来年3月までの間にしっかりと審議して、実施計画に対する要望あるいは必要性を答申にしっかりと書き込んでいく。来年3月までの間、任務をしっかりと果たし、今後の12年間に關して責任を持つことができる答申を作っていく。

～提案のとおり決定する～

(4) 策定スケジュールについて(資料説明：島崎企画部長)

(大西会長) このスケジュールを認めることによって、事務方にこの日程を守る義務を課すことになる。委員は初めと終わりに關して責任を持つが、事務方にはその間の作業に關して遅れる言い訳はできないという決議になると思う。

(岡山委員) 答申の内容について明確にしないといけなところがある。今回この審議会の役割は、市の庁内組織が作成した基本構想の案を審議することなので、この審議会では意見について微調整しかできないと思うが、基本構想はどのような形でやろうとしているのか。基本構想が悪いと、あとで意見を言っても結果的には何にも直ってこない。今やらなければならないこと、先送りできないことの洗い出しをしっかりと、その中でどうするかということだと思う。基本構想について、庁舎内でどのような経過をもって作ろうとしているのか。

(島崎企画部長) 今の総合計画に沿って進めてきた事業を検証し、リニアを見据えて今後

どんなまちにしていく必要があるか、アンケートの意見を分析しながら骨子を作りたいと考えている。その次に審議会の審議を通じて素案、原案とレベルを上げていきたい。適時皆様の意見を聞いて調整すべきところは調整しながら意見を反映していきたい。

(岡山委員) 市民アンケートは不平不満を言う形になることがあるので気を付けないといけない。アンケートの分析の仕方によっても大分違ってくる。グループインタビューについても同じことが言える。骨格づくりが一番大事だと思うので、特にそのことについて注文したい。委員会の役割は本当に少ないので、その辺はしっかりと気合を入れてやってほしい。

今までの行政の延長線上を考えるのではなく、新しい切り口を模索し物事を考える発想が構想の中で大事なものになる。

リニアのまちづくりビジョンとの関連性をどういうふうにしていくのか。

35年のリニアのまちづくりビジョンの中にこの12年をどのように位置づけるかが大事。

どこかで局面を切り替えた構想の新しい工夫が必要。

(大西会長) 今後早い時期に、会長、副会長、何人かの委員で相談して、審議のスピード、形、作業に対する指示の案を作成し、それを皆さんに諮りたい。

～会長提案のとおり決定する～

(5) 市民の意見収集について(資料説明：木村企画財務課長)

(大西会長) 市民アンケート評価等の結果が出るのはいつごろか。

(木村企画財務課長) 8月の末程度には集計をしていきたい。公開の時期は未定。

(大西会長) アンケートはこのままでいくのか、ひと工夫があった方がいいのがあると思う。このままでいくかどうか会長、副会長一任いただきたい。

(丸山副会長) コンサルに委託したということを初めて聞いた。行政は都合によって隠す場合があるので、もっと誠実に明確な情報を開示してほしい。

コンサルを5月23日に指名し、入札は6月6日にされていて今日は7月12日である。来年の3月まではいくらほどもない。時間がないと言いながら、7月12日は遅い。私たちも忙しい身だが、皆さんが忙しいからを枕詞にして、事務局だけでやることはいけない。

(田島委員) 市の動きが非常に遅いが、これは動きが速すぎる。市民アンケートは非常に不安定で、どういうふうにも誘導し分析できる。この会は非常の重いものだから、出来上がったものに対して私たちが少しずつ微調整だけするのは絶対いけない。このペースでこの会が行くことを非常に懸念する。

(安藤広子委員) 日頃の市民の人たちとの関わりの中で、いろいろな思いを意見交換して、少しでも計画の中に入れてもらえるといい。皆さんがこういう思いなら何

度も開いて行政に取り入れてほしい。

(栗谷本委員) アンケートの環境衛生に関する項目欄で、自然環境保全や自然エネルギーの活用が1項目しかない。アンケートの項目の質、内容を高めないといけない。市民が参加できて、それが反映できるというアンケートにしないと

(島崎企画部長) 本来は資料を事前に委員に配布するが、今回は委嘱がまだだったので大変皆様にご迷惑をおかけしました。次回からは必ず会議の1週間ぐらい前には皆様に資料を送ります。

アンケートについて6月6日の入札だったが、皆様の意見を聞いたうえでアンケートを出したいという思いがあった。遅れたことは大変申し訳なく思っている。

～市民アンケート、グループインタビューの実施について了承する～

～アンケート項目追加を委員から募集し、締切りを7月19日と決定する～

～その後の検討は会長、副会長で行うことに決定する～

(7) 今後の会議の進め方について

(木村財務課長) 基本構想の骨子(案)、素案の諮問事項を3つ程度の部会で事前に審議を行い、部会の意見を取りまとめ、審議会で全体の会議を行ってはどうかと考えている。

部会の互選で部会長、副部会長を選出し部会を運営していただきたい。

部会の運営について、会長、副会長、部会長さんで打ち合わせ会を持っていたきたい。

(大西会長) いくつかの部会に分けるのは合理的な考え方だが、現時点で案がないので、会長、副会長で整理し、その案として皆さんに提案したい。不合理な点があれば申し入れをいただいて調整したい。

部会の運営でそれぞれの部会の審議速度が異なると最終案を作るときに困難を生じるので、審議の内容、深度について常に打ち合わせをしないとけない。その部分を会長、副会長、部会長で調整し、合意した段階で全体会議を何回か開いていきたい。

(安藤広子委員) 部会はいつ開催するか。

(大西会長) 部会の構成、分担の割り合いをについて案を作り、その案を皆さんに提示して、部会で作業をする手順だと思う。

(小池委員) 資料7を説明願いたい。

(大西会長) 事務局は3つのかたまりを考えている。分野をきれいに分けるか混合にするかがあると思う。個人的にはそれぞれの部会の主たる関与者が過半数で、それ以外の分野の方が一緒になったほうがいいと思う。部会の構成、委員

の割り振りは、会長、副会長で案を作り、皆さんにもう一回諮りたい。
～会長提案のとおり決定する～

(大西会長) その他委員に意見を求める。

(安藤広子委員) グループインタビューの予定回数は。

(木村企画財務課長) 回数等の想定はしていない。期間の想定はしている。各団体でグループインタビューに応じていただければありがたい。

(田島委員) アンケートもグループインタビューも行政の実績づくりのためだけに行うことのないようお願いしたい。

(木村企画財務課長) 行政側の都合のいいような結論にしないよう十分配慮しつつ、グループのお許しがあればグループ名を挙げて意見を公開する形をとりたい。

(大西会長) 留意したほうがいい点、してほしい点が出てくると思う。その時は事務局に出してくれれば必ず真摯に対応する。

(小池委員) 部会の構成の連絡はいつごろという提案をしてほしい。委員のところには早めに予定等を流してほしい。

(大西会長) 委員の構成等は、可及的速やかに決定して皆様に案を提出することで了解してほしい。

(加藤雄一郎委員) アンケートの追加や最終的な案を見て審議に参加したいが、そういう情報共有ができる手順はあるか。

(大西会長) 全体に関する情報へのアクセスの方法は検討課題にさせてほしい。

(浅井委員) 意見に啓発された意見があり、それが共有することの意味だと思う。誰がどういう立場でどういう意見なのかということ自体にも意味があるので、あとで個別に意見を出せばそれで終わりというふうにしないようにしたい。市民の意見を直接聞くこともあるが、我々自身の意見がどうなのかを戦わせる場があるといい。

午前11時36分 閉会

H25.8.12.

事務局長

会長 大西健夫